

目標管理型の政策評価に係る評価書の標準様式

別紙2

(環境省24-41)

施策名	目標9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発					
施策の概要	環境の状況の把握、問題の発見、環境負荷の把握・予測、環境変化の気候や環境影響の解明・予測、環境と経済の相互関係に関する分析、対策技術の開発など各種の調査研究・研究開発を実施するとともに、研究開発のための基盤の整備、成果の普及により環境分野の研究・技術開発を推進し、環境問題の解決や持続可能な社会の構築の基礎とする。					
達成すべき目標	環境技術の研究開発を進め、環境と経済の統合された社会の実現に寄与する。					
施策の予算額・執行額等	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	
	予算の状況(千円)	当初予算(a)	9,956,418	13,008,853	12,729,705	11,765,925
		補正予算(b)	-	308,797	-	-
		繰り越し等(c)	△312,473	△1,301,012	(※記入は任意)	-
		合計(a+b+c)	9,956,418	12,016,638	(※記入は任意)	-
	執行額(千円)	9,540,030	11,966,322	(※記入は任意)	-	
施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	<p>第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)において、以下のことが述べられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術は、我が国の豊かさや人々の安全な暮らしの実現、経済をはじめとする国力の基盤の構築に資するとともに、知のフロンティアを切り拓き、我々人類の直面する課題の克服に貢献するための手段である(第1章 4.(1)) ・新たな価値の創造に向けて、我が国や世界が直面する課題を特定した上で、課題達成のために科学技術を戦略的に活用し、その成果の社会への還元を一層促進するとともに、イノベーションの源泉となる科学技術を着実に振興していく必要がある。(第1章 4(2)①) 					

測定指標	1 環境研究総合推進費の事後評価(5段階)で上位2段階を獲得した課題数(上位2段階の課題数/全評価対象課題数)	基準値	実績値					目標値
		年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	年度
		-	22/33 (66.7%)	26/36 (72.2%)	20/38 (52.6%)	18/46 (39.1%)	29/58 (50.0%)	60%以上
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-
	2 環境技術実証事業における実証技術数(単位:件)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	年度	
87		87	87	72	49	77	対象技術分野数×10	
年度ごとの目標値		60	70	70	80	80	-	

施策に関する評価結果	目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・環境研究総合推進費(競争的資金)については、測定指標の目標値達成に向け、中間評価の厳格化と適切なフィードバックを行うとともに、各研究課題に係る原課に研究管理への積極的参画を求めるとともに、運用改善を図っているところ。 ・環境技術実証事業における実証技術数については、近年安定的に推移し、通算520技術を実証しており、アメリカに次いで世界トップレベルの実績を有している。
	目標期間終了時点の総括	

学識経験を有する者の知見の活用	研究・技術開発課題については、外部有識者により事前・中間・事後評価を実施しており、その評価結果を踏まえ研究・技術開発を実施している。
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	・環境技術実証事業:実証技術情報(実証結果一覧) http://www.env.go.jp/policy/etv/list_20.html
---------------------------	--

担当部局名	総合環境政策局環境研究技術室	作成責任者名	吉川 和身	政策評価実施時期	平成25年6月
-------	----------------	--------	-------	----------	---------